



まちづくりネットワーク協議会
加盟団体が活動実績を報告

令和3年6月に設立された綾ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会。SDGsの達成に貢献することを目指し、町内に活動拠点を置く16団体が加盟して研修や情報共有、協働による活動の展開を図っています。

4月26日に行われた令和4年度の総会では、発足から1年間の活動や収支決算、本年度の予算案が承認され、引き続き16団体で例会やSDGs研修会などを行うことになりました。

この1年間、コロナ禍で計画どおりに活動できなかった同協議会ですが、トロッコ道を散策道として活用しようと草払いや倒木処理に取り組んだほか、綾北川沿いの清掃活動や講師を招いての研修も行いました。小野真敬会長は「新型コロナウイルスや石油価格の高騰の影響を受けているさなかですが、地域づくりの火を消さないよう、各団体ができる限

り活動を実践しています。互いの活動を知ると刺激になるほか、協働の動きも生まれると思います。今後も皆で活動を継続していきましょう」と呼びかけました。

総会に続いて行われた加盟団体の活動報告では、各代表が令和3年度の活動実績や今後の取り組み案などを発表。九州自然歩道と川中神社古参道を活用した周遊コースの整備・活用や、ジビエ（狩猟で得た野生鳥獣の食用肉）の商品化、地域資源を組み合わせたアドベンチャーツーリズムのメニュー検討、発酵による雑草や落ち葉の肥料化などの新たな活動計画もあげられました。

事業所や学校、町外の施設などと協働で進んでいる取り組みも数多く報告され、森や水、伝統文化といった豊かな地域資源を活用しながら、地域の課題や世界の動きに沿った多種多様な活動が着実に展開していることが確認

できました。

会員からは「食材や在来植物、人のつながりなど日常生活に当たり前に存在している気が付かなかった魅力を感じた」「継続することが何より大事。感染症の状況を見ながら踏ん張っていききたい」「森の恵み、森と暮らしというものを深く考えるきっかけになった」などの意見が寄せられました。

この7月に登録10周年を迎える綾ユネスコエコパーク。環境保全だけでなく、社会活動や地域経済についても持続的な取り組みが求められます。ユネスコエコパーク推進室では、これからの同協議会および加盟団体の活動を支援していきます。



持続的な活動を呼び掛ける小野真敬会長



綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp>

※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column

イカル

頭巾をかぶったような黒い頭と長い尾、黄色い太くて大きくなくちばし、特徴の鳥です。口笛のような高い声で「キーコーキー」と鳴きます。特徴的な鳴き声は、地域によって異なることが、最近の研究で明らかになってきました。

体の大きさは20cmちょっと。木の実など植物のタネを太いくちばしで上手に食べるため、季節によっては地面を跳ねて歩く様子が見られることもあります。5〜7月の繁殖期には、高い木の枝に巣をつくるため、高い場所から声が聞こえてくることも多くなります。特徴的な鳥の鳴き声が聞こえてきたら近くの木を探してみてください。



NEWS!

綾町イオンの森
展示コーナー



5月号で紹介したように、この春、綾町イオンの森を紹介する常設展示コーナーがイオンモール宮崎2階に設置されました。壁一面に綾町イオンの森のイラストマップが展示されているほか、生物や観光施設などを紹介するタッチパネル、綾町の動画を流すモニターが設置されています。

4月23日には、イオン環境財団設立30周年を記念した「植樹30万本プロジェクト」の一環として、イオンモール宮崎でサクラなどの苗木5種類1千本が来場者に無料で配布されました。配布の手伝いをしたイオンチアーズの子どもたちをはじめ、300人を超える一般の買い物客も展示コーナーに足を運んでくださいました。